



ごあいさつ

院長 貝嶋 光信

10月の声を聞き、朝夕にすっかり秋の気配を感じるようになりました。あの暑さはどこに行ったのだろうか？と。それにしても今年の夏は異例の暑さでしたね。そんな中、コロナウイルスの感染は今もなかなか収まっていませんし、若い人の間ではインフルエンザの流行が始まっているようです。インフルエンザのワクチンもしっかり接種して、その大流行を防がなければならないと思います。



この病院便りが届く頃にはラグビー日本代表がアルゼンチンを倒し、決勝トーナメントに駒を進めていることを願っています。（10月5日記）

『4町内会合同「防災避難所訓練」の研修』で講演してきました

栄養科 谷脇智美

去る8月26日(土) 4町内会合同「防災避難所訓練」(中島町・柏陽町・有明町・恵央町)が、避難場所となっている若草小学校で実施され、約30名の方の参加がありました。

町内会役員の方から、防災の研修として講演の依頼があり、「非常食の活用について」お話をしました。非常食の選び方、長期保存の非常食、非常食を使ったアレンジレシピを紹介し、長期保存の非常食は、実際に手に取って見てもらうことができ好評を得ることができました。



新型コロナワクチンの接種予約につきましては お住まいの各市村まで直接お問い合わせください



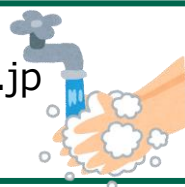
恵庭市ワクチン接種コールセンター
0123-29-7851

千歳市新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター
0570-023-600

北広島市ワクチン接種コールセンター
011-807-8018

北海道新型コロナウイルスワクチン接種相談センター
0120-306-154

厚生労働省
www.mhlw.go.jp



国民生活センター
新型コロナウイルス感染症関連
kokusen.go.jp



心臓CT検査のご紹介

放射線科 技師長 菅原 寛之

心臓CT検査とは

心臓CT検査とは、狭心症や心筋梗塞の原因である冠動脈の狭窄を調べる検査です。冠動脈とは、心臓の筋肉を栄養している血管で、血管が閉塞し心筋が壊死する状態を心筋梗塞といいます。また、強い狭窄があり、運動などの負荷がかかった状態で、胸に痛みや苦しい症状のある状態を狭心症といいます。

血管が徐々に閉塞すると、周りの血管が増殖し、閉塞した部分を補うように、ある程度は栄養されますが、狭窄のある血管の内膜が破綻したり、あるいは、血栓がつまったりなどして突然閉塞した場合は急性心筋梗塞といい、場合によっては死に至ります。

心臓CT検査では、急性心筋梗塞がおこってしまう前に、冠動脈ステント留置などの治療を行えるように、狭窄病変を描出する事を目的としています。(当院の症例 図2、3、4)

当院の心臓CT検査

現在まで約8000件の検査を行っており、2005年に北海道1号機として導入した64列CT装置を用い、さらに2018年からはCANON製の最上級モデルである320列CT装置 Aquilion ONEを用いて、高精細かつブレの少ない高画質な画像を提供しています。

また、エックス線CT専門認定技師が2名在籍しており、より高度な検査にも対応しています。

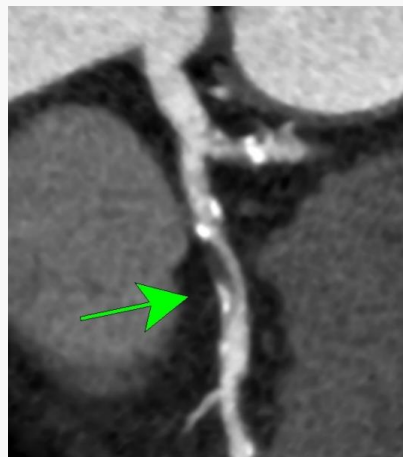


図2. 心臓CT画像
冠動脈左前下行枝に高度狭窄が認められる。

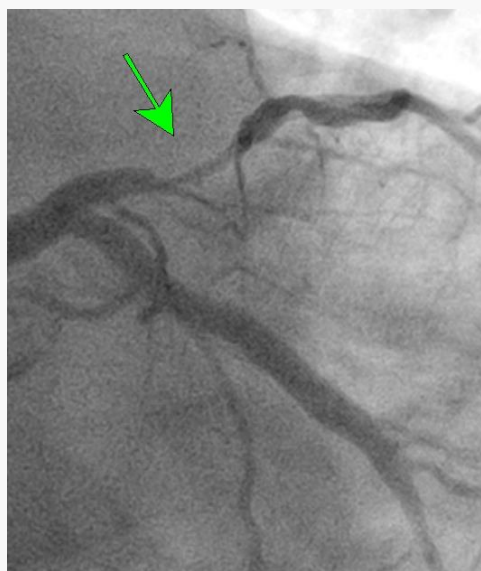


図3. 血管造影画像
CT同様の狭窄が認められる。



図4. 血管造影画像(STENT留置後)
狭窄部位を拡張しSTENTを留置した。



循環器内科のご紹介

副院長・循環器内科部長 牧口 展子

はじめに

当科は心臓や血管疾患を中心に診断・治療を行っている診療科で、現在5名体制でおもに下記の疾患の診断・治療にあっております。

- 1.虚血性心疾患(冠動脈-心臓の筋肉に栄養を送る血管-の動脈硬化・血栓などにより心臓の筋肉の血流障害をきたし胸の症状を生じる疾患)
- 2.不整脈(徐脈：脈が50回/分未満、頻脈：脈が100回/分以上、脈の不整など)
- 3.心臓弁膜症(心臓にある4つの弁の開きや閉まりが悪くなり機能不全を呈する疾患)
- 4.末梢血管疾患(手・足への血管の動脈硬化・血栓などで血流不足から症状を呈する疾患)
- 5.大動脈疾患 (大動脈が瘤状に膨れたり：大動脈瘤、血管の壁が裂ける疾患：大動脈解離)

これらの疾患の治療は大きく分けると薬物療法、カテーテル治療、外科的治療の3つの方法があり、病状によって適切な治療を選択しています。薬物治療、カテーテル治療のほとんどは当科で治療を行うことができますが、当科で行うことができない外科治療および一部のカテーテル治療が必要な場合は連携病院に相談し治療依頼をしております。治療後は当院やかかりつけ医での治療も可能です。

最近では高齢化が進み心不全患者も増加しています。

心不全とは心臓のポンプ機能が低下し、全身に十分な血液を送ることができない状態のことを言います。心不全の原因はさまざまであり、基本的には利尿剤を中心とした心不全治療薬による薬物治療となります。先ほどあげた虚血性心疾患、不整脈、弁膜症が心不全の原因となり得ますので、それら原因疾患の有無を検査し必要であれば治療もあわせて行います。患者増加に伴い、かかりつけ医、多職種との連携も今後重要になってくると考えます。

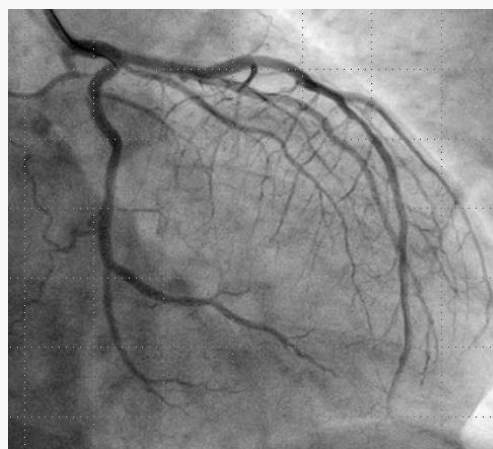
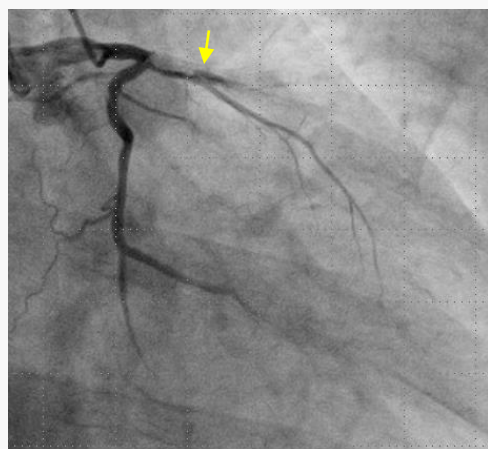
代表的な疾患について

①狭心症・心筋梗塞

虚血性心疾患の代表的な疾患です。冠動脈に高度の狭窄が生じると運動などの労作で心臓の筋肉の血流不足が生じ、そのサインとして胸部圧迫感などの症状が出現します。これが狭心症です。

一方冠動脈が血栓などで急に閉塞し血流が途絶え時間が経過すると、心臓の筋肉が壊死に至り、重篤な不整脈が発生あるいはショック状態に陥るなど命に関わることがあります。この状態を急性心筋梗塞といいます。

狭心症の場合は外来受診のうえ、心臓CTやカテーテル検査等の検査を行い診断することができます。急性心筋梗塞は一刻も早い緊急カテーテル治療が必要ですので症状が持続する際は救急車で搬送してください。早期の治療を行うことで救命率は改善します。



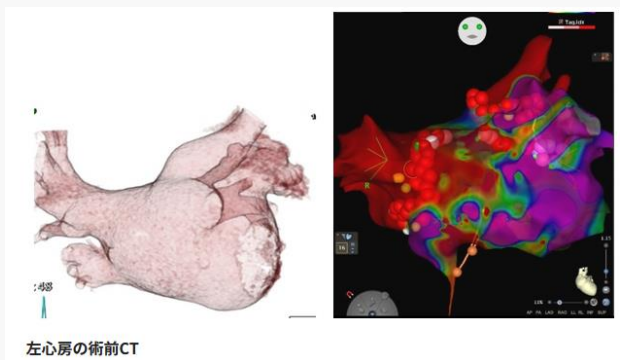
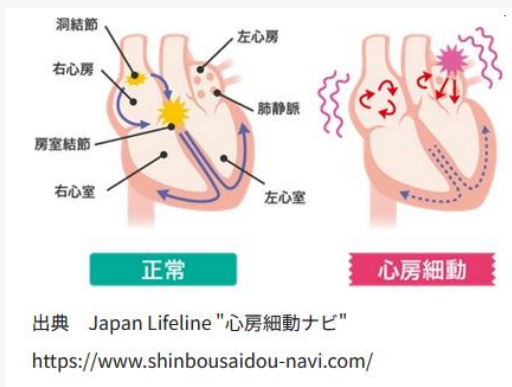
症例：急性心筋梗塞(左：冠動脈前下行枝閉塞 右：カテーテル治療後)



②心房細動

不整脈の一つで高齢になるほど起きやすくなります。脈拍が不規則になり、極端に脈が遅くなったり速くなったりすることもあります。心臓が不規則な動きとなり心臓内に血栓ができやすくなります。そのため心不全や脳梗塞の原因となり得る不整脈です。認知症との関連もいわれています。まずは抗凝固治療をはじめとする薬物療法を行います。動悸など自覚症状が強い場合や、心不全、脳梗塞予防のために根治治療としてカテーテル治療（経皮的カテーテル心筋焼灼術）があり当院でも積極的に行っております。心電図で心房細動と診断を受けた、あるいは動悸発作がある場合は当科受診してください。近隣の先生方はいつでもご相談ください。

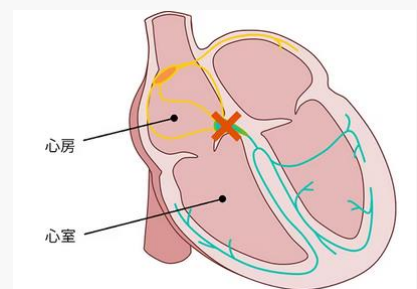
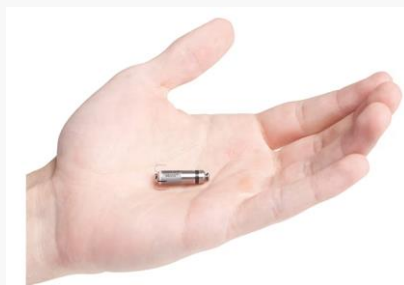
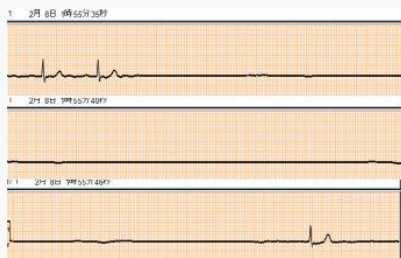
図: 心房細動の発生部位; 肺静脈 → 経カテーテル心筋焼灼術(肺静脈隔離術)



③徐脈性不整脈（房室ブロック、洞不全症候群）

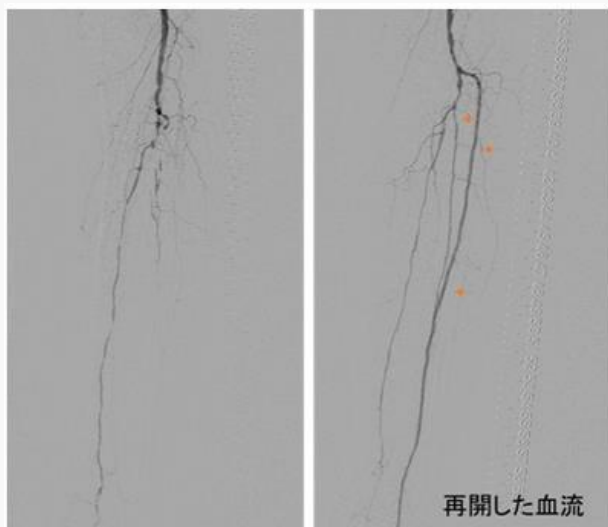
不整脈の一つで、心臓内の電気刺激を伝えるシステムに障害をきたし、徐脈（脈が遅い状態）を生じ、めまい、失神などの症状が出現することがあります。治療としては脈を補助するためにペースメーカー植え込み術が必要になります。リードを心臓内に留置し皮下ポケットに機械を植え込む従来型の永久ペースメーカー植え込み術のほか、超高齢者にも負担の少ないリードレスペースメーカー植え込み術も当院で施行可能です。患者様の病状、全身状態にあわせて治療を選択しています。

図: リードレスペースメーカー(出典 medtronic社 websiteより)



④末梢動脈疾患

足の血管の動脈硬化の進行により歩行時の足の冷たさ、だるさ、しびれが生じます（跛行）。さらに病状が進むと足に潰瘍、壊疽が生じます。糖尿病、透析患者さんに多くみられます。薬物治療、運動療法に加え、足の血管の動脈硬化に対してもカテーテル治療により血流再開をはかり症状の改善や創部治癒をめざしています。重症の潰瘍、壊疽のある場合は形成外科との連携をとりながら治療にあたっています。



治療前



治療後

⑤大動脈疾患

大動脈が瘤状に膨れたり（大動脈瘤）、大動脈壁が裂ける（大動脈解離）病気で、激しい胸や背中の痛みで発症します。腹部の血管におよぶとおなかの痛みも現れます。急性の場合は血管の部位によっては命に関わり、突然死をきたすため、外科のある病院に治療を依頼します。

心・血管病の予防、早期発見、再発予防のために

・胸が苦しい、動悸など胸の症状があるときには早めに受診しましょう。めまいなどの脳神経症状、胃部不快などの消化器症状と似ていることがありますので注意が必要です。症状の回数が増えたり、持続時間が長くなったりするのは危険な徴候です。

・動悸を感じたら検脈（手首の脈を触れる）習慣を持ちましょう。脈の不整、脈が極端に早い、遅いなどあれば受診しましょう。症状のあるときに心電図をとると診断がつきやすくなります。普段から血圧計で自分の血圧や脈拍を知ることでも大事です。

・定期的な検診をうけて早期に病気を発見することも重要です。高血圧症、脂質異常症、糖尿病など生活習慣病に対する早期治療も心血管病の予防に貢献します。かかりつけ医への定期的な受診、健康状態の把握、生活習慣病に対する治療と運動、規則正しい生活も大切です。心血管病、心不全を発症した際は当科で治療し、安定したらかかりつけ医での治療継続と連携をさらに深めていければと考えています。

・当院では心臓リハビリテーションを外来、入院患者に積極的に行っています。適切な運動処方のもと医師、理学療法士、作業療法士など多職種が連携し、運動療法を行うことで心・血管疾患、心不全再発予防に取り組んでいます。永続的な運動が可能となるよう、近郊のジムとも連携をとっております。

今後エルゴメーターによるCRX（呼気ガス分析を併用した心肺運動負荷試験）導入予定となっております。より精密な運動耐容能の評価が可能となります。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科のご紹介

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は

①耳領域、②鼻領域、③口腔領域、④咽喉頭領域、⑤頸部領域
と大きく5つの領域に分類されます。

咽喉頭(咽頭・喉頭)：のど
頸部(頸部)：くび

耳領域：中耳炎、難聴、耳鳴り、耳垢、耳管開放症・狭窄症、外耳道異物、めまい
顔面神経麻痺

鼻領域：鼻炎、副鼻腔炎、嗅覚障害、鼻閉、鼻骨骨折、鼻出血、鼻腔異物

口腔領域：舌炎、味覚障害、舌腫瘍、唾石症、睡眠時無呼吸症候群

咽頭領域：扁桃炎、咽頭違和感、咽頭・喉頭腫瘍、咽頭異物(魚骨)

頸部領域：甲状腺(機能異常、腫瘍)、頸部リンパ節腫脹、頸部リンパ節炎、頸部腫瘍

耳鼻咽喉科は耳や鼻、のどといった狭い領域を担当する診療科と思われがちですが、実際には、脳と脊髄、眼球を除いた頭部および頸部の広い領域も担当しています。

また、担当する領域が広いだけでなく、風邪や花粉症、鼻出血、中耳炎、めまいなど、誰もが一度は経験するような疾患から、鼻副鼻腔手術や頭頸部の治療などの専門性の高い診療も担当しています。

2023年11月から常勤として、外来診療や手術、入院診療を行います。咽頭炎や中耳炎、めまいなどの内科的な治療から頸部腫瘍手術や鼻副鼻腔手術などの外科的治療も積極的に取り組んで参ります。

常勤医師(2023年11月～)

道塚智彦 2012年 旭川医科大学卒

耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医

補聴器相談医

留学：がん研有明病院 頭頸科 2018年～2020年

非常勤医師

國部 勇 1993年 旭川医科大学卒

耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医・指導医

駒林優樹 2002年 旭川医科大学卒

耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医・指導医



病院敷地内禁煙のお知らせ

平成20年7月1日より、当院の病院建物内および駐車場、通路を含む

敷地内での喫煙は禁止となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

恵み野病院ホームページアドレス：<http://megumino.or.jp>

